

## 「NPO 法人森と海の学校」の活動を見学しました

2025年8月25日(月)に山陽小野田市本山地域交流センターで開催されたNPO法人森と海の学校主催の第3講座「海水で作る『鹽(塩)づくり(龍神の鹽)』と、手製のニガリで『豆腐づくり』」を見学しました。



「NPO 法人森と海の学校」は、「心豊かな冒険心あふれる子どもたちを育てる」をテーマに様々な学習体験を行い、社会に貢献する有意な青少年指導者を育成し、社会教育の推進と青少年の健全育成に寄与することを目的に、1984年に団体を立ち上げられました。

今年度は、不登校や生きづらさを感じている児童生徒を対象に「遊びながら楽しみながら学ぼう」をテーマに、経験豊かな指導者による8回の自然体験や創作活動を継続して行い、物づくりの楽しさや喜び、感動を仲間と共有することで、「自己肯定感」を高め「生きる力」を育み、子どもたちの笑顔と輝きを取り戻し、最終的には、学校復帰や学習意欲を促すことをねらいとし取り組んでおられます。

第3回目となる今回の講座は、小中学生13名に高校生4名含む運営スタッフ・講師を含め総勢25名が参加、縦割りの4つのグループに分かれて、「海水からの塩作り」と、「にがりを使った豆腐作り」の2つのプログラムに取り組みました。講座の開始にあたって、フリ

ースクールの校長先生から「塩は、無いと生きていけないもの。どのように作るのかしっかりと学んで、自分で作った塩を家で楽しんで食べてください」と挨拶があり、山口県周防大島町の「龍神乃鹽工房」から来られた 3 名の講師指導のもと、塩づくりにチャレンジしました。

実習に入る前の座学では、瀬戸内海沿岸で塩づくりが行われていた歴史や塩に関する基礎知識を学びました。

実習が始まると、高校生スタッフは、プログラムの進行がスムーズに行くように、また、小中学生が積極的に取り組めるように声掛けをしたり、片手鍋の柄にひっかかってやけどをしないようにと、鍋を置く向きなどの注意点をさりげなく伝えたりしていました。時には、小中学生と同じ目線で話を聞いたり楽しそうに会話したりと、そこには参加者にとって安心した居場所と時間があるのだと実感しました。

塩づくりも豆腐作りも、時間がかかる気の抜けない工程があるため、忍耐力も必要になります。講師を始めスタッフ皆さんの楽しい雰囲気づくりや参加者のやる気を応援する声かけにより、参加者は飽きることなく、交代で積極的に火の番や温度管理し作業を進めていました。塩づくりで結晶が浮いてきた瞬間や豆腐作りでニガリを入れ固まり始めた瞬間には、歓声が上がっていました。

今回のプログラムは、算数（数学）・国語・理科・社会（地元愛も育まれる内容）・調理実習など科目を超えて多岐に渡った学びや気づきを得ることができる上に、チームビルディングも自然と学べる構成になっているなど、いろいろな要素が織り交ぜられており、まさに、「生きる力」に繋がるものと感じました。

（本郷）